



## NF前夜祭

イチョウの芳しい香りが目立つ11月22日、みなさんお待ちかねのNF前夜祭が行われました。我々が「はくび会」は例年通り、一皿350円という単価の高さにも負けないほど人気のある焼肉の模擬店を出店しました。

畜産資源は午後から博論発表があり、直前での参加になりましたが、グラウンドへ行ってみるとそこはもう戦場に。肉を焼く係りと炭を入れてうちわで扇ぐ係り、そのポジション取りがまずかった。肉を焼いている反対側で必死に扇ぐものだから、焼いている人は煙で目は開けられないわ、火は立ち上るわ、注文をせかされるわ…。しかし、さすがは焼き職人、みんな涙目になろうが、腕が火に包まれようが、生のま…きちんと焼いて販売していました。

NFが初めてだった私も肉を焼く係りに参加。気がつけば肉が無くなったの完売御礼。私は、涙を流しながら一生懸命に焼いた肉を一口しか食べられなかった「悔しさ」、そしてそれをあざ笑うかのように模擬店周りを楽しんでいた西尾くん、児嶋くん、木村くんに対する「何か熱くこみ上がってきたもの」、二度洗いをしても臭いが消えない「服」を胸に、来年こそは！と雪辱を誓いました。

閉店時間を早めての店じまいは今年で3年連続らしいですね。今年に引き続き、来年も…来年は焼き方を考えて4年連続の完売御礼を目指しましょう。来ていただいたお客様、ありがとうございました。そして参加した栄養、生殖、育種、生体機構、畜資のみなさま、本当にお疲れ様でした。（酒井）

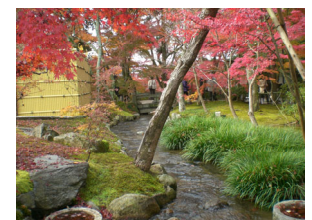


紅葉に彩られた夜の清水寺

### 目次:

～広岡先生の随筆⑩～	2
⑩ハノイのモーターバイク	
【AAAPがありました】	3
Honduras goat production (4)	4
コラム:一言一考「運」	4
山羊で農村開発③	4
お知らせ	5

紅葉が今年是一段と鮮やかな気がします。冠雪した山に赤や黄色の広葉樹が彩りを添え、自然の美しさを誇示しているようです。紅葉と一言で言っても、一本一本の木々がそれぞれの色を主張しているのに、全体では見事な調和が取れている。私たちもそんな研究室



でありたいですね～。

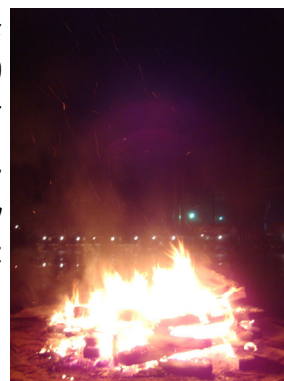
コートが必要になったと思ったら、もう街はクリスマスのイルミネーションで溢れています。今年もあと一ヶ月、気を引き締めて、最後まで充実した年にしたいものですね。

## 前夜が明けた先には

第49回前夜祭が焼肉の香りとともに走り去った23日からは第50回京都大学11月祭(以下本祭)が開催されました。(前夜祭は第2回11月祭から開催されたので1回少ないのです。)4日間開催された本祭では、前夜祭の舞台となったおまつり広場の他に、本部構内、吉田南構内も巻き込み、模擬店やステージのみならず講演会、展示、古本市、演劇、コーラスなどなどが連日行われていました。普段とは違う(もしくは普段から違う)京大生の生態を間近に見る絶好の機会だった

のではないのでしょうか。

ちくしの皆さんは毎年前夜祭に力を注ぎすぎるためか、本祭に行くことがあまりないようです。立て看群や演劇を見る機会なんてそんなになんないですよ～。来年はぜひ。(うな)



## 好評連載 広岡先生の随筆

### ⑪ハノイのモーターバイク



今年9月の下旬にハノイで開催された13回目のAAAPの大会に参加した。今回ハノイに初めて行って最もびっくりしたことは、モーターバイクの多さである。ハノイ市内はどこも、朝早くから夜遅くまでモーターバイクが街中にあふれかえていた。主たる道路の交差点には、信号待ちのモーターバイクが道路いっぱいに列をなしていた。新宿や渋谷の交差点では、歩行者が交差点いっぱいに列をなして信号の変わるのを待っている光景がよくテレビで映し出



されるが、ハノイの光景は、まさにそれがそのままモーターバイクに乗る人々に置き換わったと考えてもらったらびったりとくる。どう見ても異常な光景である。なぜこのようなことになってしまったのだろうか。専門家でないのではっきりとは断定できないが、おそらく次のような理由ではないかと想像する。

このような状況になるまでは、人々は都会の密集地に住み、遠くに行く場合は、不便であってもバスや鉄道、あるいはもっと以前ならば人力車などの交通機関で移動していたのであろう。それが経済発展に伴って、人々は豊かになり、モーターバイクの普及とともに、あっという間にモーターバイクを持つようになった。日本のホンダやヤマハもこのようなモーターバイクの普及には大いに貢献したのであろう。聞くと今では年収の半分くらいでモーターバイクを購入できるそうである。中古ならばもっと安価に手に入るのかもしれない。

振り返って考えると、日本の場合はこのような状況になることはなかった。ある意味、モーターバイクが普及する前に、自家用車が普及したと言える。さらに言えば、大都市ではJR(国鉄)、地下鉄、バス、市電が古くから発達しており、日々の通勤や通学には公共の交通機関を利用したほうが、自家用車よりもずっと速く、安く、確実に職場に行くことができた。日本は戦前から先進国であったのである。

もっとも、日本人がみんな自動車を持てるようになったのはそう古い話ではない。高度経済成長時代には、自家用車を持つことがステータスシンボルと考えられていた。自家用車が十分普及している現在でもそのような考えを持つ人がいる。ベトナムでは今、モーターバイクをもつことが一種のステータスシンボルであるのかもしれない。

私は1980年代からマレーシアにしばしば研究のために行っていた。初めてマレーシアに行った1980年代前半は、クアラルンプールなどの大都会では、バスやミニバスがそれなりに発達していたが、田舎では人々は歩くかせいぜい自転車で近くに移動するにすぎなかった。もっとも農業が主たる仕事であれば、それほど移動する必要はなかったといえる。また、私が当時住んでいたマレーシア農科大学のキャンパス内ではほとんどの学生は自転車や歩いて移動し、クアラルンプールに出るときには、1、2時間に一本しかないようなバスを使って出かけていた。私もよくクアラルンプールに出かけたが、ドアもバックミラーもないようなオンボロのバスに揺られて、1時間半もかけていろいろな集落を回りながらの移動であった。1990年代に入ると、クアラルンプールは、朝夕は通勤の自家用車であふれかえり、交通渋滞で全く動けないような状況になった。大学のキャンパスでは、学生たちが古い中古のモーターバイクで走り回り、キャンパス中が排気ガスに包まれていた。その合間を歩くと喉が痛くなるほどで、今のハノイほどではないにしろ、ひどいものであった。今回の大会に参加していたマレーシア人の友人が言うには、今は多くの学生たちは自家用車を所有しているらしい。



今のハノイを見ていると、まもなく深刻な環境問題に直面することは容易に想像できる。日本や先進国の様な排ガス規制もないので、深刻な大気汚染がすぐに現実のものになる。人々は目先の便利さを求めて、その代償に自分の健康を犠牲にするのであろう。

このような状況を考えると、ある経済発展の段階には、個々の人々の豊かさや公共機関や公共施設の発展との間に適度なバランスが必要なのかもしれない。日本の場合、1970年代に深刻な公害問題に直面したが、その後、技術の進歩や人々の努力によってかなり解決された。マレーシアの場合も、クアラルンプールには無人モノレールや地下



鉄ができ、交通渋滞は大きく緩和された。また、排ガス規制がなされているのであろう、以前のような排気ガスを出す車もほとんど見られなくなった。

このような視点から、京都大学のキャンパスを見た時、ほとんどの学生は今も昔も自転車を使ってキャンパス内を移動している。さらに言えば、私が学生であったころと比べて、むしろ自家用車を所有する学生の数はずっと少なくなっているように思われる。これはどういうことなのだろうか。

マレーシアの学生の現状を聞いた時、私は京都大学の学生がほとんど自家用車を持っていないことを話し、京都大学の学生はpoorだとジョークを言った。友人がこのジョークをどう捉えたかは知らないが、私は、多くの学生が、何が大切かを知り、意図してかどうかはわからないが環境問題を意識して自家用車を持っていないのではないかと考えている。自家用車をステータスシンボルとして考えたり、便利さを追求したりしたいのであればもっと多くの学生が自家用車を所有していてもよいはずである。最近、大学当局は、環境問題に力を入れていることを世間にアピールしたいのか、研究環境を悪化させてまで電気代を削り、さらには大学内で環境税を徴収して環境意識を持っていることをアピールしようとしている。しかしむしろ、「環境に配慮しながら」自転車を移動手段とする京都大学の学生たちのことをもっと世界にアピールすべきではないだろうか。当たり前のように見えるこのようなことが、実は最も先進的なことである。ホテルの窓からハノイの街を見ながらふとそのようなことを考えた。  
(広岡博之)

## 【AAAPがありました】

「生ものには気をつけろよ」という感慨に浸りづらい言葉を饒別に旅立った先はベトナムの首都ハノイ。空港からハノイ市内へ向かうタクシーの窓に映るのは溢れんばかりの二輪車群と水田、脇で草を食む牛。9



ゆうしゃは どのとうのはいく をとなえた！



ハノイの田園風景

月22日～25日、どこもなく土の匂いの香るこの地で第13回AAAP(The 13th Animal Science Congress of the Asian -

Australasian Association of Animal Production Societies)が開催されました。



サテライトシンポジウムの座長を務める広岡先生

今回のAAAPのキーワードになるのは「small holder」。

「Animal Agriculture and the role of small holder farmers in a global economy」というテーマを軸に様々な分野からの発表と活発な議論が行なわれました。



ポスター発表で質問に答える児嶋さん

畜産資源からは広岡先生、田端さん、児嶋さんがポスター発表、熊谷先生が口頭発表を行ないました。皆様お疲れ様でした。なお、田端さんはこの学会で見事「Excellent presentation award」を受賞されました。(vol.30に関連記事)おめでとうございます！



(うな)

ヤギの飼育舎裏。糞が傾斜を転がって排水溝に落ちる仕組みです。

**AAAPとは？**  
アジア大洋州畜産学会議  
“Asian-Australasian Association of Animal Production Societies”  
伝統的小規模複合農業体系と大規模単一農業体系の両者を有するアジア・大洋州地域において家畜生産技術の向上という目標を掲げ、1980年から開催され、今年で13回目を迎えました。2010年の14回目開催予定地は、台湾です。



冬瓜茶。お茶らしいですが見た目はコーラ、味は黒糖です。



ウシ、ヤギ。ヤギに関する発表も多数ありました。➡



コラム：一言一考 ⑨  
「運」

良縁のこと。関わりを縁という言葉で表現すると、良縁と悪縁が存在する。そのうちの良縁が通常使われる運であると思う。悪縁を良縁に変えることは出来なくはないが、至難の業である。また、縁は双方の関わり方によって決まるものであるため、良縁であっても悪縁に変わることもある。

明太子



山羊カレンダー(2008年版)

## *Honduras goat production; International and local goat production promotion programs and their role with local farmers*

### A review of actual production condition (4)

The other goal, improving child malnutrition through increasing milk consumption, often fell short for several reasons. These reasons included low milk production, which was insufficient to provide adequate amounts for all of the children under the age of five in a household, consumption patterns within households, and the fact that some households stopped buying milk when the goats produced

In general, a question continually raised: How can one really get the farmers involved in the project and evaluation? So far, the problem with goat introduction projects often stems from the fact that these projects have become popular with development organizations as a means to combat child nutrition problems. That is, it is so firmly believed that goat introduction projects can be beneficial that little attention is given to the appropriateness of the project for a particular community. It is for this reason that it is essential that the farmers (men and women) conduct their own needs assessments, select projects, and evaluate the progress of the projects.

The development organization may need additional qualitative data not obtained during farmer-led needs assessments and evaluations to meet the requirements of funding agencies. However, these data also can be obtained from and by the farmers. Farmer participation should not be used to service the needs of the development organization. It should be used to empower the farmers and the community to continue their own development.

Source; Ketzis K.J. 1997. Method for establishing and evaluating a goat introduction project. Livest. Research for Rural develop. Vol 9, No.1.

(Lenin Gradiz)

## 山羊で農村開発③

9月7日から始まった【小型草食家畜生産を通じた農村開発研修】が、11月14日(金)に閉講式を迎えました。研修員は、JICA筑波を拠点に、家畜改良センター本所、長野牧場、十勝牧場などでの10週間にわたる研修を無事終了しました。閉講式に先立って、研修で得た山羊・綿羊生産に関する多くの技術と知識、そして農村開発のための普及手法を基に、それぞれの帰国後の活動計画を作成し、発表しました。



この研修プログラムで、研修員からの関心が高かったのは、乾季に備える粗飼料の保存法と生産物に付加価値をつける実習(ソーセージ、チーズ、フェルト加工)でした。そして、生産物や製品を販売するためのマーケティング技術を取り入れて欲しいという要望があがりました。このあたりは、日本の山羊生産農家さんも興味のあるところだと思います。

今回の研修に参加した7名の研修員は、最終日まで研修に対する意欲の高さを持ち続け、高い成果を残しました。アフリカユニティをモットーに、お互いに協力し合って発表会のスライドや普及活動に用いる技術マニュアルを作成し、期待以上の出来栄でした。圧巻だったのは、閉会式での答辞。オフィシャルな場でのお手本のようなスピーチでした(録音しておけばよかった...)。ちょうど恩師から、英語のソーシャルスキルを身につけるように言われたところだったので、とても参考になりました。

さて、私もこの研修を通じて、講義や実習などのプログラムから、また研修員からもアフリカの山羊の情報や各国での利用法など、多くのことを学びました。発展途上国の農村地域における山羊の必要性和重要性を再認識しましたし、総合調整員という仕事も経験できました。実は、この研修の仕上げは、帰国後3ヶ月以内に研修員が、それぞれの国で活動計画をいかに実施したかを評価して完了します。研修員がどのような報告をしてくれるか、今から楽しみです。

(ようこ)

Department of Animal Husbandry  
Resources, Kyoto University,  
Faculty of Agriculture  
Oiwakekyo, Kitashirakawa,  
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

Tel: (+81)-75-753-6363

Fax: (+81)-75-753-6373

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: [yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp)

## お知らせ

### 今月のゼミ

今月のゼミは、

12月 3日(水)柳・中川 14:45~16:15@W210

12月 4日(木)椎野(修士論文中間検討会) 10:30~12:00@N074

12月10日(水)椎野・酒井 14:45~16:15@W210

12月18日(木)柳・中川(卒業論文中間検討会) 10:30~12:00@W210

の予定です。また、変更等がありましたら、逐次お知らせいたします。ゼミ係

### 畜魂祭のお知らせ

12月12日(金)12:00-12:50に動物実験棟の畜魂碑前にて畜魂祭が行われます。形式は、例年通り各自時間内に訪問してお焼香するスタイルです。献花なども受け付けています。研究に貢献してくれた山羊や羊の冥福を祈りに出掛けましょう。ちなみに雨天順延となりますのでご注意ください。



### 忘年会のお知らせ

今月の第3週か第4週に忘年会を予定しています。行きたいお店があったら、イベント係までご一報ください☆日程は追ってお知らせいたします。イベント係

### 今月のおみや

ついに畜資にも噂の『太郎ちゃんまんじゅう』が登場しました。『白いお台場』って…。話題の『クラブハリエ』のパームクーヘンも長蛇の列にめぐずにおみやになりました。高槻牧場の柿と愛知県のおいしいりんごも召し上がれ～



## 2008年 12月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
11/31	12/1	2	3 竹内・兒嶋 体重測定④	4	5	6
7	8 クリーン大作戦	9	10 西尾・木村	11	12 畜魂祭(12:00~)	13
14	15	16	17 田端・椎野・柳 体重測定④	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日	24 レニン・イクバル・ 酒井	25クリスマス 🎄	26	27
28	29	30	31 未定	1/1 お正月	2	3

**編集後記** 11月下旬にやっと研修室に復帰しました。先月号は、コンピューターソフトの不備で発行が遅れ、ご心配をお掛けしましたことをここにお詫び申し上げます。今月号は何とか間に合って、一安心です。また、留守の間、畜産資源の皆様にはいろいろご迷惑をお掛けしてごめんなさい。そして官能試験でお手伝いいただいた方々、どうもありがとうございました。寒くなってきたので、そろそろみんなでお鍋でも囲みたいなあ～と思っています。もちろん研究も頑張ります♪